

## 日本からの手紙

### —ハワイ先住民が綴った19世紀末の日本—

A letter from Japan

—A travelogue by a Native Hawaiian visitor to Japan in the late nineteenth century—

古川 敏明<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学文学部

Toshiaki Furukawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：19世紀末，日本，ハワイ先住民，ハワイ語新聞，ハンセン病

Key words : Late nineteenth century, Japan, Native Hawaiian, Hawaiian language newspaper, Hansen's disease

#### 抄録

本報告はハワイ語新聞に関する調査の3年目の研究成果として、19世紀末に日本に滞在していたハワイ先住民、デイヴィッド・ケアヴェアマヒによる旅行記を紹介する。ケアヴェアマヒによる旅行記は、ハワイ語新聞で複数の記事に分割され、「日本からの手紙」として掲載されていた。この旅行記を分析することで、19世紀末におけるハワイ・日本間の人の移動について、日本からハワイへの移民と比べて、これまで注目されてこなかったハワイから日本への人の移動に関する興味深い事実が明らかになった。

#### 1. 導入

本報告は19世紀から20世紀にかけて発行されたハワイ語新聞に関する研究である。ハワイ語新聞は先住民に関する事柄だけでなく、ハワイ王国の日系移民や当時の日本に関する事柄も取り上げていた。しかし、ハワイ研究や移民研究の進捗状況と比較すると、日系移民や日本に関するハワイ語記事の調査はまだ始まったばかりである。

ハワイ語新聞は19世紀から20世紀にかけ100年以上にわたり、日刊や月刊など、政府系・宗教系・独立系に分類される合計100紙以上が発行されていた。新聞は地域や国際ニュース、神話や物語、読者投稿、訃報記事、広告、船便に関する情報などから構成されていた。ハワイ語新聞に関する背景的な説明については、すでに別の場所で詳しく行っているため本稿では割愛する<sup>[1]</sup>。

本研究は一昨年度および昨年度の助成により記事のデータベース構築と予備的分析を開始し、本年度は複数年にわたる研究計画の3年目に位置づけられる。本年度は日本に関するハワイ語新聞記

事の翻訳とデータベース構築を継続し、言説分析のための基盤を充実させることを目的とした。以下では本年度の研究成果について報告する。

#### 2. 先行研究

研究初年度である2014年度は36本の記事（総語数3,200語）を英訳した。これらの記事は比較的短め（100語前後）で、発行年代は20世紀、そして、執筆者の署名なしという特徴があった。

2015年度は30本の記事（総語数5,500語）を英訳した。これらの記事も初年度と似た特徴を持ち、比較的短めの記事が中心で、記事の発行年代は20世紀のものが大半を占め、執筆者の署名がないものだった。こうした成果の一部はすでに報告済みである<sup>[2]</sup>。

また、過去2年間に収集した記事では、日系移民に関する記事に加え、太平洋戦争に至るまでの日本、あるいは太平洋戦争中の日本に関する記事が目立った。一方で、これらの記事の語り口は主要なマスメディアのそれと大きな違いはなく、

ハワイ語新聞ならではの語り口が認められたとはいいがたかった。この結果を踏まえ、主要マスメディアとは異なる、先住民語メディアとしてのハワイ語新聞ならではの視点を含む記事を収集すること、さらに従来よりも長く、執筆者の署名があるような記事を収集することが課題として浮かび上がった。

### 3. 方法

ハワイ語新聞データベース、パパキロ

(Papakilo) を用いて記事の検索を行った。これまでと同様、Japanese を意味するハワイ語 *Kepani* を検索語として用いた。今年度はさらに検索結果を年代別に再検索し、19世紀の記事を閲覧することによって、上述の課題に合致する記事を収集することができた。

収集したのは19世紀末に掲載された一連の記事である。これらの記事は長い手紙が分割されたものであり、手紙の執筆者はデイヴィッド・ケアヴェアマヒ (David Keaweamahi) という人物になっている。当時、ケアヴェアマヒはハワイ王国が統治するハワイから明治政府が統治する日本を訪れていた。ケアヴェアマヒは滞在中に見聞きした日本の街や人々とのやりとりの様子をハワイ語で綴り、その手紙が「日本からの手紙」という見出しで、複数の新聞に分割されて掲載された。

ケアヴェアマヒによる手紙は、Ke Alakai O Hawaii 紙において、1888年9月22日、9月29日、10月6日、11月24日に分割して掲載された (8,551語)。これに続いて、Ko Hawaii Pae Aina 紙において、翌年1889年11月23日に掲載された (1,101語)。そして、Ka Nupepa Kuokoa 紙において、数年後の1896年8月28日に掲載された (1,938語)。3紙に掲載された手紙の総語数は11,590語である。

本年度は2名のリサーチアシスタントを雇用し、手紙の一部 (Ke Alakai O Hawaii 紙に掲載された1888年9月22日から10月6日までの5,184語) を英訳することができた。翻訳した語数は昨年度とほぼ同程度である。次節ではこれらの記事の抜粋を示し、手紙の内容を概観する。

### 4. 分析

1888年9月22日に発行された Ke Alakai O Hawaii 紙の一面は以下のようにになっている。



図1. Ke Alakai O Hawaii (Page 1)  
出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

ケアヴェアマヒの手紙が掲載されたのは全8ページ中8ページ目の4列目 (右端) であり、この号の最後の記事という扱いである。



図2. Ke Alakai O Hawaii (Page 8)  
出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

4列目 (右端) の上段から中段にかけて始まる記事の冒頭を拡大したのが以下の抜粋である。

## HE LETA MAI IAPANAMA MAI.

HOOMAUIA MAI AUG. 29 MAI.

(Mai a D Keaweamaui mai)

## NO IOKOHAMA.

I ka po o ka la 26 o Iune, ku makou i ke awa o Iokohama, a aole au i ke pono i ke ano o ke awa a me ke kulana-kauhale, eia no ko'u ike ana i ke ana ae o ka la 27. He awa ku moku maikai keia, a akea no hoi, he akea no hoi kahi a na moku e komo mai ai, a pela no me kahi e ku ai, a ua lawa paha na moku he haneri a i ole he tausani ke ku i keia awa; he mau mokuahi nunui, me kekahi mau manuwa ke ku ana i ko makou ku ana mai, a he lehulehu hoi na moku liili; aka aole nae e like me ko kakou ka hele o ka moku a pili i ka uapo, eia no keia iwaho e ku ai, a maluna o na waapa nunui o na Kepani e aloalo ai ka ukana, pela na ohua. He like iho la no hoi keia awa ma ka'u hoohalike like ana me Lahama, a o kahi like ole wale no, oia hoi, he nalu ko Lahaina. e-ha'i ana ma o a maanei o ke awa, a pela no ma ka aeone, o keia aole, he like iho la no keia me lok o Ewa ma la ka lana malie o ke kai, aia wale no ka omi ae o ke kai a pa ia mai e ka makani.

図 3. Ke Alakai O Hawaii (Page 8, Column 4)

出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

冒頭の見出しにある HE LETA MAI IAPANAMA MAI は「日本からの手紙」という意味である。次の行の HOOMAUIA MAI AUG. 29 MAI は、「8月29日からの続き」という注記であり、上記抜粋部分が手紙の書き出しではないことがわかる。しかし、データベースで公開されている Ke Alakai O Hawaii 紙の 1887 年と 1888 年の記事一覧を見る限り、8月29日発行のものは存在しない。資料が欠けているのか、記事の中の日付参照に誤りがあるのか今後確認作業を進める必要がある。

3行目は括弧の中に Mai a D Keaweamaui mai とあり、「D. ケアヴェアマヒから」というように記事(手紙)の執筆者に関する情報が示されている。4行目は NO IOKOHAMA とあり、「横浜について」と小見出しが付けられている。5行目からは6月26日に横浜湾(ke awa o Iokohama)に到着したが、湾

と街の様子が確認できたのは27日の朝になってからだったということが記されている。

ところで、ケアヴェアマヒはどのような理由で日本を訪れたのだろうか。1888年10月6日の記事の冒頭を読むと、その理由の一端をうかがい知ることができる。

Nolala, kauoha aku la ua haku hale hou nei o maua i na kanaka no laua na kaa Giirikishia e lawe ia maua no kona hale, nolala, kau ae la maua maluna o na kaa Giirikishia a hoi hou aku la no hope. i ke alanui Motosueha Machi Sanchoe No 1., he mahi kema e kokoke aku ana i ka hale kaaahi a makou i hiki mai ai. Tokio nei, a he runi maikai hoi no maua e moe ai; a ua loaia iho la ia maua he wahi e noho ai, me ua haku oluolu. I keia wahi a'u e noho nei me ka maikai a hiki i keia wa, o ka ekolu keia o na malamalama ko'u noho me keia makamaka maikai a oluolu, a mai keia wahi no au e kii ai i laua no'u i ka Hautipila o Dr. Goto. He mau pule ko'u o ka noho ana me ka ike ole ia Dr. M. Goto a me ka nui ole no hoi i ka laua.

Ko'u halawai ana me Dr. M. Goto ka mea hoi i kaulana no ke ola o na ma'i lepera, a makua hoi o Goto Opi'o i noho Kauka ai no Ka-kaako.

図 4. Ke Alakai O Hawaii (Page 2, Column 3)

出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

ケアヴェアマヒは Dr. M. Goto という医師を訪ねてきたことがわかる。しかし、ケアヴェアマヒはすぐにこの医師に会うことができなかったため、彼と会える日を待つために日本に滞在してすでに数週間経過し、3ヵ月目に入ったと記されている。また、M. Goto 医師は lepera (記事中は lepera, 辞書の見出し語としては lepela), つまり leprosy (ハンセン病) の治療で著名な人物であり、子どもも医師として(ハワイの)カカアコで活動していると説明されている。

さらに読み進めると、結局、ケアヴェアマヒは7月7日に M. Goto 医師が帰ってきたことを知り、7月9日によろやく会うことができたようである。

Ma ka la 7 o Iulai, lohe ia mai ana,  
ua hoi mai o Dr. M. Goto, nolaila i  
ka Poakahi ae Iulai 9, ua hele aku la  
ap a hoi pu me ia, me ko'u hoike ana  
aku iai i ke kumu o ko'u hele ana  
mai; a i kuu ike ana iana, na elema-  
kuie, aka he ano no nae o ke kanaka  
eleu a me ke kuo. Hoike aku la au  
i ko'u palapala mai a Dr. Iwai mai o  
Honolulu, me ko'u hahai pu aku hon.  
he ma'i au na Kauka Goto opio i la-  
pau, oia i Hawaii, a mai kana  
lapan ana a hiki i keia wa ka loa  
ona ia'u o keia oluolu, a no ko'u ake  
e pau loa keia ma'i mai ko'u kino aku,  
nolaila, ua haalele aku au i ka aina  
hanau a me ko'u chana, a holo mai  
nei Iapana uei e lapan ia mai ai e  
oe, ka mea a makou i lohe ai, a i  
kaulana hoi no ke ola o ka Ma'i Le-  
pera.

図 5. Ke Alakai O Hawaii (Page 2, Column 3)

出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

M. Goto と面談することができたケアヴェアマヒは、自分がハワイで Goto Opio (M. Goto 医師の子ども) からハンセン病の治療を受けていたこと、M. Goto の治療を受けて病気を完治させるために日本にきたことなどを伝えるのである。

## 5. まとめと展望

本年度はこれまでの研究を補うことを目指し、ハワイ先住民ならではの視点を含む少数言語メディアらしい記事で、まとまった長さを持つ署名記事を収集し、予備的分析を試みた。本年度翻訳できた記事はケアヴェアマヒの日本滞在記の一部であるが、さらに関連記事を収集し、翻訳を行うことによって、特に以下の3点においてハワイ研究およびハワイ先住民研究に貢献することが見込まれる。

まず、19世紀後半に日本を訪れた一般のハワイ先住民についてはほとんど研究が進んでいない。データベースの予備的な検索によると、ケアヴェアマヒは牧師であり、ハワイ語新聞 Ke Alakai O Hawaii の記者としても活動していたことがうかがえる。ハワイ先住民の日本訪問というと、これまでハワイ王国7代目の王であるカラーカウアによる1881年の日本訪問について言及されることが多かった。カラーカウアは明治天皇に謁見し、サトウキビ畑に労働者を送るよう要請し、1885年に日本からの移民が再開し、政府斡旋の官約移民

が開始された<sup>[3]</sup>。こうした移民政策を背景として、M. Goto 医師の子どもである Goto Opio がハワイで医師として活動していたと考えられる。ケアヴェアマヒの日本滞在記についての研究は、従来の研究を補完することができるだろう。同様に、ハワイ王国から教育のため世界各地に派遣されていた若者たちの存在も興味深い。こうした若者たちの中には、1882年から数年間、日本に滞在していた兄弟 (James Haku'ole と Isaac Harbottle) がいることが知られているが、留学生活の詳細については不明なことのほうが多い<sup>[4]</sup>。

次に、ケアヴェアマヒは手紙の中で当時の人々や街の様子を綴っている。その中で、日本ではハンセン病患者が自由に歩き回っていることを驚きを持って綴っている。近年研究が進んでいるハワイ語新聞を用いた調査には、19世紀後半にハワイで隔離されていたハワイ先住民のハンセン病患者が綴った手紙を新資料として分析し、いわば抑圧されてきた声に迫る試みが行われている<sup>[5]</sup>。この点でも、ケアヴェアマヒの手紙を資料として研究を進めることで先行研究を補完できる。

最後に、ケアヴェアマヒの日本滞在は、近年、観光人類学で研究されているメディカルツーリズムの一形態といえるかもしれない<sup>[6]</sup>。19世紀後半のハワイ王国と明治政府間における移民政策を背景に、日系の医師がハワイで医療サービスを提供していた一方で、ハワイ先住民が国境を越えて日本に医療サービスを受けにやってくるということは興味深い事実である。

## 付記

本研究は平成28年度大妻女子大学戦略的個人研究費 (課題番号 S2832) の助成を受けたものである。リサーチアシスタントとして翻訳を支援してくれたハワイ大学マノア校の大学院生クーリアとカハヌオラにも感謝申し上げる。

## 引用文献

- [1]古川敏明. 真珠湾, パールハーバー, プウロア: ハワイ語新聞の予備的分析. 大阪大学大学院言語文化研究科 (編). 批判的社会言語学の方法 言語文化共同研究プロジェクト 2011. 大阪大学大学院言語文化研究. 2012, pp. 31-40.  
[2]古川敏明. ハワイ語新聞への学際的アプローチ: 日本・日本人・日系人関連記事の分析. 人間生活

文化研究. 2015, 25, pp. 126-130.

[3]矢口祐人. ハワイの歴史と文化: 悲劇と誇りのモザイクの中で. 中央公論新社, 2002.

[4] Quigg, Agnes. Kālakaua's Hawaiian Studies Abroad Program. The Hawaiian Journal of History, 1988, 22, pp. 170-208.

[5]Silva, Noenoe K. et al. Mai ka 'āina o ka 'eha'eha

mai: Testimonies of Hansen's disease patients in Hawai'i, 1866-1897. The Hawaiian Journal of History. 2006, 40, pp. 75-97.

[6]豊田三佳. メディカルツーリズム: シンガポールとタイの事例から. 山下晋司. 観光文化学. 新曜社, 2007, pp. 155-160.

---

### Abstract

As part of a larger, ongoing study on Hawaiian language newspapers, this report describes a travelogue written by David Keaweamahi, a Native Hawaiian who visited Japan in the late nineteenth century. Keaweamahi's travelogue was published in Hawaiian language newspapers as a series of articles under the headline, "He Leta Mai Iapana Mai" (A Letter from Japan). A preliminary analysis of these articles has revealed interesting aspects of the flow of people from Hawai'i to Japan in the late nineteenth century, which has been much less researched than immigration from Japan to Hawai'i in the same period.

---

(受付日: 2017年4月3日, 受理日: 2017年4月12日)

古川 敏明 (ふるかわ としあき)

現職: 大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科 准教授

ハワイ大学マノア校言語学研究科博士課程修了. Ph.D. (Linguistics)

専門は社会言語学, ディスコース分析, ハワイ研究.

主な著書: ハワイ語の世界 (単著, 人間生活文化研究所). ハワイを知るための 60 章 (分担執筆, 明石書店).